

3個の台風が首都圏を直撃

平成14(2002)年は、年降水量が北日本で平年を上回った半面、西日本と東日本の太平洋側では下回るという地域差の大きい年だった。北海道、東北、北陸などでは平年を上回る年降水量を記録し、石川県の金沢では最大値を更新するなど、東北や北陸の一部では平年の120%を超えた地域もあった。また、台風の発生数は平年並みながら、本土には平年より多い8個の台風が接近。その中で台風6号、7号、21号と、昭和26(1951)年以来初めてとなる年間3個の台風が関東地方に上陸している。

6月29日に南方海上で発生した大型で非常に強い台風6号は、ゆっくりとした速度で太平洋岸に沿って北東に進み、7月11日未明に千葉県南部の富津市付近に上陸した後、東北の太平洋岸をさらに北上。11日の夜には北海道に再上陸した。このため、全国109水系の国の直轄河川のうち24水系58河川が警戒水位を超え、そのうち5水系6河川が危険水位を超える出水となった。戦後第3位を記録する出水となった阿武隈川の福島観測所(福島市)と北上川の

狐禅寺観測所(一関市)を筆頭に、東北地方ではほとんどの川が警戒水位を上回り、福島県郡山市や須賀川市・福島市・鏡石町・本宮町の合計3万世帯8万人以上に避難勧告・指示が発令された。台風の通過に伴って梅雨前線を刺激したことから、岐阜県では根尾村で総雨量が562mmに達したのをはじめ県内各地で激しい雨が降り続き、約1万1000人に避難勧告が発令され合計1128人が避難をしている。台風6号に引き続きほぼ同じコースをたどった台風7号も、16日正午頃に千葉県房総半島に上陸した後北上。北陸・東北地方を中心に、多い所では降り始めからの雨量が200mmから300mmに達し、新潟県や神奈川県を中心に浸水被害が発生している。

関東に上陸した台風としては戦後最大級とも言われた台風21号は、三浦半島を通過して10月1日午後8時頃に神奈川県川崎市に上陸。その後2日の午前8時に北海道の留萌市付近から日本海に抜けるまでの間に、秋雨前線を刺激して関東地方を中心に各地で激しい雨を降らせた。これにより、1日午後10時35分、東京と神奈川の都県境の多摩川下流域に洪水警報が発令されたほか、関東地方では6水系が警戒水位を超え、静岡県、神奈川県、茨城県、埼玉県、福島県などで浸水被害が発生した。台風21号は雨ばかりでなく風も強く、午後9時半頃、茨城県潮来市延方の東京電力の送電線の鉄塔7基が折れて倒れ、2基が傾くなど、風による被害も相次いだ。

□台風6号・7号・21号の経路図



台風6号による大雨で浸水した大垣市内 [写真提供/読売新聞社]



計画高水位を超えた揖斐川流域では浸水被害が相次いだ(岐阜県垂井町) [写真提供/共同通信社]



台風7号の強風でなぎ倒された鹿児島市内の街路樹 [写真提供/毎日新聞社]